**長崎のキリシタン文化の歴史**

日本におけるキリスト教の宣教は、1549年のフランシスコ・ザビエルの来日とともに始まりました。キリスト教は一時隆盛を誇りましたが、1587年の豊臣秀吉によるカトリックの神父の追放令の後、徳川幕府は次第に弾圧的な姿勢をとるようになり、ついにはその後約260年にわたって続くこととなったキリスト教の全面禁止が敷かれました。

長崎は、日本におけるキリスト教信仰の中心地で、「日本にては長崎がローマ」と言われるほどでした。そのため、日本のキリシタンと呼ばれるキリスト教信徒の取り締まりにおいて中心的な役目を担ったのは長崎奉行でした。キリシタンから没収した聖画や信心具等は、ここ長崎奉行所の宗門で厳重に管理されました。